

長崎検定

一級さん

Vol.12

歴史を知る楽しさを
教えてくれた長崎検定

栗須芳孝さん

合格率五・三％…。長崎歴史文化観光
検定の最難関を突破した一級ホルダー。
その卓越した識見には、なにやら一言
ありそうです。
みづくはらたに寄稿願いました。

〈長崎検定との出会い〉

転任先の東京で定年を迎え、2007年夏、長崎に戻って来た時は、全てがリセットされ、頭のなかは空っぽでした。たまたま書店で長崎検定公式テキストを見つけたのが長崎検定との出会いです。テキストの半分も知らないことに驚き、長崎さるくマップとともに購入し、空いていた体と頭の体操（歩行と学習）を始め、知ることの面白さにたちまち熱中してしまいました。

よく練られたテキストとマップで、企画、作成された識者の方々に感謝するとともに、長崎の歴史文化の奥深さを知らされました。
〈最初は「ヘー」の連続〉

テキストやマップに出てくる場所に出かけに行くことで、このところ低下が著しい記憶力をサポートしました。長崎市街地は何度もさるきました。昔住んだ南山手の寮の番地が150年前の開港時から変わっていないことや会社のダンスパーティーの会場にも使わ

れていた自治会館が長州藩蔵屋敷跡であるこ

と等々、「ヘー」の連続でした。段々と面白くなり、さるく範囲を郊外に広げました。野母崎の権現山展望台では、軍艦島、高島、伊王島を一望しながらオランダ船の航路や白帆注進の状況を想像したり、高島航路から福田港が直接外海に面していることを見て長崎開港当時に想像したりして楽しみました。また、魚見岳台場跡では、長崎港を見下ろしながらこの台場構築のもととなったフェートン号事件を考えたり、幕府のキリシタン弾圧のきっかけとなったマードレ・デ・デウス号事件（沈没）の高鉾島付近を眺めたりしていると、自分なりにイメージが膨らんできて、生まれて初めて勉強が楽しいと感じました。

〈長崎の歴史を外から見るのも面白い〉

長崎の街や港の歴史と密接な関係にある平戸、西海市の横瀬浦、島原半島の口之津、原城跡、日野江城跡、島原城を訪ね長崎との歴

史のつながりを考えながら「さるき」ました。

なかでもオランダ商館設立400周年の平戸では、私と同年代と思えるボランティアガイドさん達の案内を受け再興中の商館、鄭成功、宮ノ前事件など、出島や唐人屋敷につながるお話が聞けて楽しかったです。

〈楽しみな龍馬伝〉

今、龍馬伝を楽しみに、幕末、維新にはまっています。龍馬の本や、薩長土の維新前後の本を興味深く読んでいるところです。

定年後、抜け殻とならずに楽しめているのも長崎検定との出会いのおかげであるうと思っています。『ありがとう長崎検定』です。



【プロフィール】

1947年 福岡県生まれ 62歳
2007年 三菱電機（株）を定年退職。南山手、花丘、滑石、時津、東京と住所を変わり、2007年7月より時津町在住